

琉球大学学術リポジトリ

原稿 : 『植民及植民政策』 第六章 植民地の分類

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/38388 |

矢内原忠雄文庫

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 史料名 | 原稿『植民及植民政策』第六章 植民地の分類 (植210~229) |
| 封筒番号 | 462 |
| 原文所蔵者 | 琉球大学附属図書館 |
| 撮影年月日 | 平成17年11月21日 |
| 撮影者 | 富士写真フイルム 株式会社 |
| 備考 | |

領土擴張、また世界分割に基く植民地、即ち
 主権植民地 (The Colonies of *sovereignty*) の六鏡に分
 5、而して第一乃至第三は古代の植民地、第
 四及び第五は第十八世紀より十九世紀に至
 る時代の植民地、而して第六は十九世紀及
 二十世紀の植民地に属するものと為す。
 法律的分類又は成立の態様による分類は改
 り成るべき植民地の実質的社會生活關係の特
 徴を標示するを得ない。歴史的分類は、植民
 地の一の歴史的關係であり、在時代の一般の社
 會生活關係の背景に於て諒解せらるべき点に於
 て有意義であるが、單なる時代別より其事態
 を解するに別の方が各種植民地の実質的
 特殊性を説明するに在り直接に役立つ。而して
 分類には *ドナト* の如き各種標準の混
 用は之を避けねばならぬ。抑も分類の実益
 は各種植民地の社會的特徴性を明かにするに
 在り、よりに植民地の實質的研究を組織的にし
 又之に對して適用せらるべき植民地政策の系統
 的研究を容易ならしむる點に在る。故に植

植 21

3

社会群に標準と置く分類

シエレー

民の實質的研究 (を容易なぐ) には實質的標準に依りて分類を
 地分類の標準はまた實質的たるを要する。而
 しこそは植民の本質に基き、社会群、居住、
 階級、又は地域の一面に依りてあらう。

二

植民は植民社会群及び居住社会群の接触で
 ある。之等は社会群の品質的標準に基き植民地
 の分類に依りてあらう。

シエレー

1. は植民の本質を以てより高き文
 明のより付き文明に及ぼす影響にありとなし

、而社会群の文化發達の相對的程度の差に従
 び植民地を分類せんといふ。即ち氏は文明を
 本村落の部族、封建的社會、都市團家、地方
 的團家、團家的國家の五級に分ち、
 家に依りて社会群の(無住) 地域に植民
 せると第五級の植民と稱し、部落的狀態の地
 域に植民せると第四級の植民と稱するの如く
 である。シエレーの着眼は文明接觸の種々相を
 研究するに有益であるが、植民地の分類より
 了は餘りに複雑なるを免れなかりてあらう。

ATHENA (4) 1) Schäffle, Deutsche Kern- und Zeitfragen. P. 168 ff. (Reinisch, Colonial Government. P. 19-20 による)。尚 Fraug にはは、
 Schäffle は植民地につき二十八の種類 (Kolonisationsarten — Apotkia 及 Kiaruchia, 経済的及非経済的 全部的 部分的等) 五つの階級 (Kolonisationsstufen
 — 現代的、近世的、古典的市民的、早期的階級的、原始的) 及び五つの階級 (Kolonisationsgrade — 植民社会群と居住社会群の文化的階級の開き) に基き上記の區別を分ちたりと

213

スペイン

2. スペインは植民に於て最も重要なるは白人の移住の擴布ありとす。見地に基き、植民地を必要とする植民地 (Einwohnerkolonien) 混合植民地 (Mischkolonien) 及び移住者植民地若しくは純粋定住植民地 (Einwandererkolonien oder reine Siedlungskolonien) の三種に分つ。第一は白人の居住に適せしめられ或は未だその居住の着手せざるものあり。第二は白人の永住者たるものあり。

この居住者も相當の地位し、且つ大部分兩者の混血行はれたるものあり。第三は白人の決定的優勢を占むるものありと言ひ、且つ所謂居住者中には純粋の土着人の外一切の有色人種を包含するものあり。第一、第二の三種の區別は、例外はありけれども、同一植民地の經過するに於て段階を示すものと爲されたる。2) スペインの分統は之を擴張し、一般的に居住

130. — Franz. Das Wesen der Kolonisation. (Zeitschrift für Kolonialpolitik, Kolonialrecht, und Kolonialwirtschaft. 1907. S. 633)

2) Supan, A. Die territoriale Entwicklung der europäischen Kolonien. S. 307.

213 植

6

L. B. 植

(1.) Colonies ou comptoirs de Commerce. (商業植民地又は根拠地)

地の細別として農業植民地を、而して農業地
 地の細別として牧畜植民地を挙げた。其の
 分類は、植民者の側より見たる主たる利用方法
 を標準とするもの、その所謂征服植民地と
 は、植民者か自己の生産的治御によりて、却
 て居住者の政治的軍事的採取によりて利益を
 収めんとするもの、を意味するが故に、其が
 分類中、に征服植民地を挙げたる事、を以て
 實質的治御及び成立態相なる二重標準を採
 用せるものなりと批難するは、却て當らぬとい
 へり。但之、若しヘーレンの所謂農業植民
 地にして永続的の性質を有するものにあらざ
 ること、之を排斥し得べくんば、掠奪植民地
 (Erfahrungskolonien) の如きは更に一層永続的の性
 質を有するものにあらざらん。之を植民地の
 實質上の分類中に加ふべきにあらざらん。は、
 正當の見解といはねばならぬ。

L. B. 植

Leroy-Beaulieu

ATHENA (4)

1) Zimmermann. 前出書. S. 4. Köbner. Kolonialpolitik. S. 16.
 2) 山本義典. 植民地研究 P. 84-85.
 3) Leroy-Beaulieu, P. de la Colonisation chez les Peuples Modernes. P. 748.

216 植

7

農業植地
植地

商業植地

工場植地

(2) Colonies agricoles ordinaires ou de peuplement (普通農業植地は居住植地)

(3) Colonies de plantation ou d'exploitation (栽植若くは採収植地)

工場植地 (Factories)

二栽植地 (Plantations)

狭義の植地 (Colonies proper) — 主として人の移住地の三と為す。

商業植地 (Commercial plantations) — 主として資本の移住地、及び三、

は、この地域は狭小なるを常として、植地者は永續的性質に立一く従つて居住者との間に政治的關係を生ずることと少い。

地よりは固有の国民を有する社会を成すを得ない。農業植地は、治御の性質上永續的なる社会を成立する。その栽植植地とは、その社会の成員が大

部は植地の農夫より成るに反し、栽植植地にはありては氣候其他の關係により本国人の移住者少く、植地者はその資本力及び経営力をもち、土人若くは輸入労働者の労働力を利用し、本國に生産せしめざる特殊の物産

ATHENA (4) 1) Egerton, Origin and Growth of the British Dominions. P. 3.

217 植

8

即ち地球砂糖等所謂植地物産 (Kolonialwaren) の生産に従うる長に存する。植地物は既
 洲の温室であり、栽培地は落制の管御により特に市場供給を目的とする園藝的作物生産の
 企業である。その *Plantation* (或は *Appropriation*) 栽培植地
 本は、は特殊作物を栽培するが故であり、
Cassia barkhata (棕取地) と稱せらるゝは資本
 が原住者の管御を落制的に利用し、天然資源
 の採取の管御に従うるが故である。され
 ばひとく農業的管御に従うるも、普通農
 業地と裁地とを根本的に社会階級
 便を異にするものと言はねばならぬ。
 主たる産業の種類に基く植地の分類は、
 併せ、細羅的の得ない。工業植地の
 管御は、は故あり。何れも既に工
 業が社会の主要産業たる地位を占むる程に
 及ぶと、社会は官制的に植地たる状態と終
 る。このあらかず、けいも、鑛業の盛なる南
 阿 *Transvaal* 鑛業の盛なる *New South Wales* 大植
 大に就て見れば、鑛業植地又は鑛業植地

ATHENA (4) 2) Roscher, 前出書, S. 23.
 3) Weber, Max. Wirtschaftsgeschichte. S. 82.

| | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-------|-------|----|
| 軍事植民地 | 開拓植民地 | 商業植民地 | 軍事植民地 | 刑 |
| 開拓植民地 (Colonies penales) | 商業植民地 (Colonie commerciale) | 刑 | 軍事植民地 | 軍刑 |
| 商業植民地 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 |
| 軍刑 | 軍刑 | 軍刑 | | |

ATHENA (4) 1) Reinsch, 前出書 P. 17.
 2) "Encyclopedia Britannica." 1923. (Zimmermann, 前出書 5. 3. による)
 3) Girault, A. Principes de Colonisation et de Législation Coloniale.

226

11

刑罰植民地

植民地は國境防備のためのものである。刑罰植民地(羅馬)可也。又は軍事的根拠地等であるが、地田的植民地はその建設の目的が軍事的なものとすも、その地に於ける植民者の生活は一つの経済社会を成すものである。注は的。例に於ける分敷中に之を包含せしめるを得る。而して軍事的根拠地の如きは之を實質的植民地の分敷中より除くを以て却て至當とする。

刑罰植民地とは本國より輸送せられたる犯罪人より成る。犯罪人の植民地輸送は十九世紀に於ける一時の事象であつた。即ち英國政府は一七八七年以後十九世紀半に亘り流刑地(南緯) Van Diemen's Land 後 Tasmania 島に對し、佛國政府

4) Girault は Colonie d'exploitation と Colonie de plantation とを区別し、前者は少數の白人に對し多數の原住民の存在すべし。後者は原住民の消滅しつゝ労働力の供出は多く輸入政策によるものとす。併し、この区別は重要であると思はれない。

| | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ケブナー | 植民地の | |
| Wirtschaftsregion) 及び植民地的根拠地 | 外領土と同視する形を主として海 外にありては、たとひ實際上の 分類なりといつても、上述の 経済的標準のみを以ては十分 に包括的なる感がある。 即ちケブナーは自主的経済地域 を為すや否やによつて植民地 とは原始生産地域 (Golfküste) | 一八五三年以後 (Guinea) に、ついで (Caledonia) は犯罪人輸送地となつた。現今に於て は犯罪人輸送の官例として、その外に、 植民地は長期に亘りて之れ自体を終局的とする事なく、 未だ植民地も純粹に犯罪人の輸送地として 利用せしむる事もあり、且つ犯罪人 植民地と雖もその實質に於て経済的設備によ る者多しと雖も、物は之を以て却つて 分類中に包含せしむ得るものがある。故に 其他刑罰植民地を分類中に加ふ と思ふ。 |
| <p>1) Fabri. Bedarf Deutschland der Kolonien? 1879. — 其の分類は 1. Ackerbaukolonien (農業植民地) 2. Handelskolonien (通商植民地) 3. Strafkolonien (刑罰植民地) の三種に於て。 2) Conrad は植民地の利用方法に従ひて 刑罰植民地、航海根 拠地、商業植民地、裁植植民地、及び農業植民地の五種に分た (Grandriss. II.)</p> | | |

ATHENA (4) 批評の外、本國上は植民地利用法法域の
 3) 山本 前出書. P. 90-91.

222 直

13

ヒュッペニユラ
イテン

へたる長に存する。
 ヒュッペニユラ
 の古き分類である。② 彼は海外領土
 (Ueberseeische Besitzungen) を分類して Stationen
 Kolonien, Kulturations の三種に大別した。第一は
 軍を拠地 (軍拠地) 第二は居住植民地 (所謂
 軍を拠地) 第三は欧米人の領土として不通である
 り、寧ろ吾人の智力と財力とを援助により
 の土地の物質的用途 (物質的用途) 及び
 二山より居住植民地の精神的用途 (精神的用途)

(Koloniale Stützpunkte) として大別し、而して前者
 を居住植民地及び栽培植民地とし、後者を
 商業伴進地及び政治的軍事的拠地に細別し
 左) 併下 (併下) 商業植民地は自主的経済の一単位
 となるべきとする理由を知るに甚しむ。而して
 地域の廣狭は之の社会的発展に影響あるべき
 も、社会 (内部) の實質的諸因に對して重要なる
 影響を有する。併下 (併下) の分類
 の特色は實質的植民地概念の範疇外に存する政
 治的軍事的拠地を分類中の一項目として加

ATHENA (4) 1) Köbner. 前出書. S. 22. 前山洋行註. その分類を採用. P. 91.
 2) Hübbe-Schleiden. Ueberseeische Politik. 1881. 76. 同氏は植民地を以て最も嚴格な實便の意味に限定す。併下 (併下) の所謂
 Kulturation と實質的植民地の概念中に包括し得るものと解す。

植 223

14

私見

文化の進歩の文化的教育をほかるべき地域に
 在りては所謂植民地に相違なく、さすれば其の分
 類中後の二者は、^{ライオンユ}の分類に當り、而して
 其の廣く海外領土の分類を混したるが故に、
 非経済的なる軍事植民地をも之に附加せざる
 べきである。
 植民地及び投資植民地の二分類を可とする
 べし。而して海外領土を指稱する意味の植民地の
 分類としてハ波表を以て適當と思ふ。
 居住
 居住植民地
 投資植民地
 軍事植民地
 主権植民地

1) 経済的植民地
 居住植民地
 投資植民地
 2) 非経済的植民地
 軍事植民地
 主権植民地
 此、例へば、サハラ沙漠の如く植民地の
 はたに國旗の¹⁾、経済上は勿論軍事上にも
 等利用せらるる地域である。
 此の地は
 植民地

ATHENA (4) 1) 同上書、5、75。
 2) Senancy. 前出書、P. 151.

927 植

15

気候を標準とする分類

植民地の自然的条件と標準としてこの分類は主として気候に基くものである。即ち(テュポ)は温帯植民地と熱帯植民地とを分ち、前者は居住植民地に、後者は長く商業的及び農植の採取の状況に止る(特産)を採ぐ(ケラー)は栽植植民地農業植民地の分類を維持すると共に、之を熱帯植民地温帯植民地の分類と同視する。而して永井柳太郎は(寒帯)地方をも包括するの趣旨に於てこれより植民地を極帯植民地及び温帯植民地の二種に分類し、各々の特徴を詳細に比較す。

気候による分類は直接には各植民地の社会諸条件の質的的特色を指示しない。但し居住植民地及び投資植民地の区別、若くは人種的構成による植民地の区別の(発生)に對して(可動)を指示する。自然的条件その地域の気候風土(可動)に對して(可動)を指示する。或る地域の居住及び間接的に暗示的である。植民地数は移住者植民地たるを名めには、その風土が植民地(種族)の種族に通し、従て婦女子小

ATHENA (4) 1) Dubois, M. Systèmes Coloniaux et Peuples Colonisateurs. 1895. P. 10.
 2) Keller, A. G. Colonization. pp. 49. 氏の分類は 1. plantation colony (tropical), 2. farm colony (temperate) と表示せり。
 3) 永井. 植民地論. 三五版. P. 150 以下.

2251 植

16

見の移住にも通ずるか故あり、反之或る地
 域が投資地地帯は居住者地帯たるは、こ
 の氣候が植民者集團的居住に適當せざるこ
 とに影響せらる。白人の熱帯地方に於ける居
 住の繁進能力についてはこれを肯定する議論
 が見るに至ることには前に述べし如くあるが
 、しかも同温地帯に對する植民と比較すれば
 熱帯地帯は寒帯地方に於ける温帯居住の植民
 社會の發展は甚だ制限せらるゝは事實である
 。此の範圍に於て氣候による分類はまた有意
 義である。何れも同じく白人にても南歐人は
 北歐人よりも熱帯又は亜熱帯地方に對する
 植民能力に富み、又その人は能く熱帯的
 生活に適應する能力を有するは事實の示すところ
 である。のみならず、氣候は居住又は投資地
 帯の存在する唯一の決定的条件ではない。
 是は自然的條件に止り、之に對して社會的條
 件の存在するを知らねばならぬ、即ち同温地
 帯の地域といへども社會的に有力なる區域
 居住者の存在する植民地に對しては、居住植民

226 植

17

各種分類の座
奥

あるに足りやみである。

三ノヤハ

地又は移住者植地は成立し難い。自然の事
 件は軍に居住者が甚しく希薄にして例一は
 台湾や朝鮮は日本人の居住に對し甚しく不
 利ではないが、日本人を以て居住者を置き換
 えようとする人口の大部分を日本人とする
 は蓋し不可能であらう。地域の自然の条件は
 単に居住者が甚しく希薄にして自然の消滅
 現象であるか、或は低層な居住者能力に對抗
 するに足る補助的施設の興中除くその種交
 へ飛べ植地者人口の増加し得べきを豫想せし

上記諸分類中移住社会群の文略程に由る
 の分類の純粹に品質の標準に基く外、
 他の分類はいづれも移住者の人数の多少を暗
 示して居る。各種分類の相関連せる長も亦比
 察に存する。即ち農業植地は多くは過半に
 住し、栽培植地は多くは熟帯にある。又過
 半植地は多くは居住植地であり移住者地
 帯にあり、熟帯植地は概ね投資植

227 植

18

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| <p>住すべきを以て其の社会的構成は本國<small>(下永ける)</small>と類似</p> | <p>増加を妨げず、従つて土人との離婚も少くして單一なる</p> | <p>而して本國よりある階級の移民者か未</p> | <p>移住者多数なる、若くは多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> | <p>地は社会的にいふと、多量たり得べき植</p> |
|--------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|

植民地の分類と
植民地の特徴

移住者の多少に
よる分類

ATHENA (4) 1) Chailley-Bert, La forme des colonies et son influence sur la législation qui leur convient (Économiste français, 1892, p. 262) — Thozée, Théories de la Colonisation au XIX^e Siècle, p. 620 1253. 但し Thozée 自身は此の分類に賛成せず。

228

19

植民地分類の
は、

するであらう。而して経済的には労働的
 及び資本的移住並に行はるゝが故に自己の勞
 カと資本とによる固有の自主的産業社会が成
 立すべく、又政治的にいへば人口増加に伴ひ
 急速に自主独立的の國民意識を有する政治社
 會が成立すべく、而かもその曉きに於て本國
 との連鎖は尙親密であり得る。之に反し特任
 者の少數なる植民地に於ては社会組織は階級
 的となすべく、経済現象は土人勞力を使用し
 て主として自然資源の採取に從事する粗率的
 搾取のたゞべく、政治的には本國の法令と適
 用し進み且つ常に土人の反抗を怖れぬ体た
 らぬであらう。一言にしていへば、前者には自
 由、後者には壓迫。

植民地の嚴密なる分類は或は不可能であら
 う。併下る特定の植民地に於て植民者の數に
 政治的社会的に支配者たるに止まらず、人数に
 於て多少とも壓倒的少數者たるを亦や否や
 は、植民地の成立及終止の態相に著しき影響
 を與ふべく、又植民地の社会的經濟的諸關係

